



小川 智久

日本歯科大学附属病院 総合診療科 准教授

総合診療科 科長

『安心・安全・効率的な歯科診療を目指して —未来に向けた医療連携の活用法—』

<要旨>

2018 年に診療情報典型共有料が保険導入され、それにより「医療連携」という言葉はよく聞くようになり、その重要性も理解しているのだが、実際どのようにやればよいか迷われている方も多いと思われます。

我々歯科医がおこなう医療連携には、歯科治療における病診連携（開業医と大学病院など）と、医科歯科連携が挙げられ、いずれにしても診療情報提供書や診療情報提供依頼書などの記入が必要であり、その書き方や内容が良くわからず踏み込めないのではないのでしょうか。確かに煩わしいのですが、やり始めると効率性の良さや、診療においても特に有病者などは情報提供があることにより現状を理解しながら治療がおこなえるなどの多くのメリットがあります。

そこで本講演では、他施設との医療連携が円滑におこなえるための基本的な知識と文章の記載法、また得られた情報の活用法などについて解説していきます。

<略歴>

1997 年 3 月 日本歯科大学 歯学部 大学院歯学研究科臨床系 修了

1998 年 4 月 日本歯科大学 歯学部 歯周病学教室 助手

2005 年 4 月 日本歯科大学附属病院 総合診療科 講師

歯科人間ドックセンター長

2009 年 4 月 日本歯科大学附属病院 心療歯科診療センター長

2012 年 4 月 日本歯科大学附属病院 総合診療科 准教授

総合診療科 科長

2017 年 4 月 日本歯科大学附属病院 医療連携室 室長

<所属学会>

ジャパンオーラルヘルス学会 副理事長

日本歯周病学会

日本歯科保存学会

日本歯科医学教育学会

日本歯科医療管理学会 等

2023 年度学術講演会 2023 年 7 月 2 日（日） 11：00～11：50



吉久保 典子

小池歯科医院

『デジタルコミュニケーションで叶える！ 歯科衛生士によるスムーズな説明と指導』

<要旨>

デジタルコミュニケーションという言葉はまだ聞き慣れない方も多いかもかもしれません。ですが、私たちの暮らしの中にはすでにデジタルの恩恵が溢れています。遠く離れていても瞬時にコミュニケーションが取れるのは、通信がデジタル化したからです。デジタルの恩恵の一つは、その圧倒的なスピードです。その恩恵を、IOS(Intraoral scanner：口腔内スキャナー)を用いて歯科臨床に応用した方法を、当院ではデジタルコミュニケーションと呼んでいます。

私たちは日々、患者さんの主訴やお悩みを正確に受け止め、安心してもらえるよう努力します。治療やメンテナンスに協力してもらうために、分かりやすい説明や指導をいつも心がけます。そのためには患者さんの理解と納得が欠かせません。

本講演では、歯科衛生士が IOS を活用することで得られる効果として、患者さんの理解や共感を高められることについて発表します。デジタルコミュニケーションが、患者さんと私たちの架け橋になり得ることをイメージしていただけたら幸いです。

<略歴>

1995 年 鶴見大学女子短期大学部歯科衛生科卒業

1995 年 山口歯科医院勤務

2012 年 小池歯科医院勤務

<所属学会>

日本デジタル歯科学会

<講演歴>

2022 年 日本デジタル歯科学会 一般口演

2022 年 日本歯科審美学会 学術講演委員会企画講演

2023 年 日本デジタル歯科学会 シンポジウム

2023 年 日本補綴歯科学会 歯科衛生士セッション

<執筆歴>

デンタルダイヤモンド社 2021 年 1～12 月号連載

『DH style：デジタルデンティストリー時代のメンテナンス』